

# 岸田首相地元の広島苦境

## 困窮者に冷たい自民

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、貧困の拡大や中小業者の苦境が深刻になっていきます。岸田文雄首相の選挙区、衆院広島1区（広島市中区、南区、東区）で市民に現状を聞くと――。

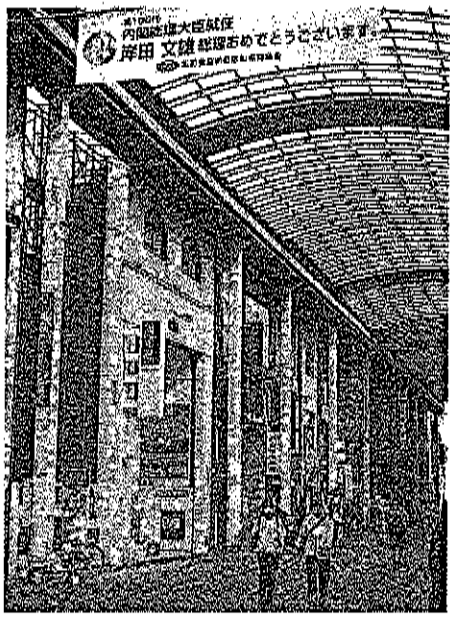
（岸田文雄）

「生活を維持するため、フルタイムでの就労は困難。毎月かかげだけの目もあります。貯金などできませぬ。岸田首相には『月の収入を足しても10万円ほど万円で生活してあげ』とお願いしたい」

東区のアパートに住む女性（82）は、自民党政権が生活困窮者に冷たいと怒ります。自身も夫も「と強状を訴えます」。

### 2021 総選挙

助けを求めて  
NPO法人「反貧困ネットワーク広島」でシェルクター（一時的な住まい）の管理に携わる田中（左）が健康（右）による、失業や借金で家賃が払えなくなり、助けを求めて事務所に来る



岸田文雄氏の首相就任を祝う横断幕が掲揚されたアーケード街＝広島市中区

### 「ふりかけだけの目も」協力金支給されない

人が多いといえます。目下では「コロナ禍の1年半は、30代や40代で生活が困難になった人の相談も受けてきました。月末になると『食えるものがない』と事務所へ駆け込んでくる市民に、お米やインスタントラーメンを渡します。こうした状態を放置してきたのが今の自民党政権だ」と指摘します。

広島県では緊急事態宣言の解除後も、飲食店に対する原簿自の集対策が14日まで続きました。休業や時短営業の要請に応じた飲食店への協力金は支給が遅れています。中華料理店を営む奥田浩一さん（51）＝南区＝は、5月末まで出前とテイクアウトのみで営業し、その後は席数を半分にして時短営業をしています。

家賃払えない  
「売り上げは平常時の3〜4割です。16万円の家賃が払えない月もありました。6月21日から7月1日までの分の協力金が、10月になっても支給されません。政治と行政にスピード感がない」と憤ります。



協力金の支給が遅れ、苦境が続く中華料理店を営む奥田浩一さん＝広島市南区

奥田さんは、中小業者の苦境に寄り添う政治を実現するためにも「自民党に對抗する勢力が増えてほしい」と総選挙での野党の躍進に期待を込めています。

中区にある中国地方最大の繁華街・洩川（ながれかわ）でスナックを営む女性（55）は、14日まで休業しました。休業中は毎月、家賃10万円とカラオケ機のリース料（3万〜4万円）が出ていくばかりでした。常連客も離れてしまったと話します。

広島民主商工会の事務所には、毎日30人ほどの会員が協力金申請などの相談に訪れます。石立天助事務局長は「このままでは選挙区を奪えない」という深刻な声もあります。国や行政による実効性のある支援が求められる」と強調します。

苦境が続く映画関連会社を営む友川千寿美さん（88）＝南区＝は「税金を国民のために使っていては当たり前です。政治を変えてほしい」と希望を感じています。総選挙で岸田政権に審判を下す必要がある」と力を込めます。